

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501149		
法人名	社会福祉法人 泰生会		
事業所名	グループホームこもれび ひまわり		
所在地	伊達市松ヶ枝町154-20		
自己評価作成日	平成26年1月21日	評価結果市町村受理日	平成26年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は小規模施設ならではの細やかな対応、いつもの仲間や馴染みのスタッフと一緒に支えあいながら生活していただいている。食事は毎食スタッフが手作りで提供し、スタッフと利用者さんが一緒に食卓を囲み、簡単な家事などを利用者さんにも参加していただきながら基本理念である「家庭に近い生活環境の中で『生活に満足できる』ことを保障し、利用者やそのご家族の思いや希望に添うようその人らしい尊厳のある暮らしを保障します。また温暖な気候に恵まれた自然豊かな場所に立地しており、四季折々の年間行事に力を入れ、家族や友人も参加できる行事を行っています。さらに、町内の老人クラブへの参加により地域の一員として活動できる場を提供します。医療連携は、訪問医師、訪問看護師、訪問歯科医、訪問医学療法士、利用者さんやご家族の希望の医療機関への受診を行っており、信頼と安心を得ている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JiyosyoCd=0173501149-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成26年2月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は高速道路の出入り口の近くに立地し、車での移動には利便性の高い場所に位置している。事業所の周囲は温暖な気候のため自然が豊かであり、静かな環境に恵まれている。同じ敷地内に建てられている同じ経営母体のケアハウスとは災害訓練や各種事業をとおして交流も多く、日頃より協力関係が築かれている。また事業所は、四季をおとの外出、季節のドライブにも主体的に取り組みしており、近郊の海辺の散策や桜を中心とした花見、紅葉の名所めぐり等、季節に応じた外出支援を実施し、利用者にとっての楽しみとなっている。当事業所の優れている点は、理念に掲げた「生活に満足できる」の追求が挙げられる。各部屋の入り口には玄関を模した「ひさし」が造られており、昔の家の趣を思い出すような、今までの生活を楽しくでもらおうとする姿勢が感じられる。食事は地元の食材を中心に用意し、利用者一人ひとりの好みや体調を大切にしながら提供するよう努めている。また食事には職員の同席、同食を原則としており、好みに沿った献立を提供し、利用者と職員と一緒に食卓を囲む毎日は、何事にも変えがたい大切なひとときとなっている。職員についても、資格手当ての支給や各種研修への参加など、職員の質のレベルアップがサービス向上に繋がっているという事業所と母体法人との共通認識のもと一体となって熱心に取り組んでおり、今後とも期待したい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	採用時のオリエンテーション、職員会議、カンファレンス等により利用者が地域の一員として生活する施設という理念は共有している。	「地域の一員として町内会で活動できることを保障します。」を、管理者と職員で話し合い経営法人の新たな理念として掲げ、今までの法人理念と共に全職員で共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件により外部のつながりが薄いように思われるが、玄関にお花やベンチを配置し、散歩中の通りがかりの人と利用者が会話する場面がみられる	地域との関わりは、歌や踊りのボランティアや実習生の受け入れを行っている。また地元の老人クラブへの参加も決まり、地域との関係性をより一層深められるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に入会しており、運営推進会にも役員の方の出席があり認知症のお話や相談を受けている。また老人クラブの入会や市内の文化祭の参加についてプッシュしているところです。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	管理者は運営推進会議の内容や家族からの意見や要望を法人に反映しており、また職員に資質向上を促しケアに向けている会議録は回覧して職員が必ず目を通す仕組みを構築している。	運営推進会議は行政・自治会会長・民生委員・家族等で2ヶ月に一度、活動報告や事故報告、推進委員からの意見や要望等を受け取り、議事録の作成を行っている。	事業所内に議事録の掲示は行われているが、事業所への理解を更に深める為にも、参加者や全利用者家族への議事録の配布を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は日頃から市役所担当者との連携を密にとり施設内の運営や利用者さんのサービスに繋げている、また入所に向けての必要な相談をしている。	介護認定の更新手続きなどで行政と日頃より相談や意見を交わしている。運営推進会議の参加により関係性を更に保ち協力体制を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームは身体拘束をしてはいけないところであることを意識づけ開所以来、ホーム内には利用者の権利を掲示している。	身体拘束をしないケアについて外部研修会へ職員を参加させ、基本的な知識を身につけ会議で全職員へ周知を行っている。抑制等についてはその場で注意を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は身体拘束についての理解を深めるためにケア内容に耳を傾け身体拘束だけでなく精神的ケアを含め職員に伝えている職員も研修を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている家族の支援、これからは機会があるごとに日常生活自立支援事業も含め地域包括支援センターの職員とも連携をとっていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は契約時において契約書・重要事項説明書を読み上げ納得のいく説明をしながらサインと捺印をいただき、後日、問い合わせがあれば出向いて説明して納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の議事録を職員回覧している。また家族来所の際には、利用者の近況をお伝えし、何か気に掛かる事がないか等のお話を伺っている。	家族の意見・要望などを運営推進会議や訪問時に聞き取りを行い、利用者からは普段の会話より引き出しそれらをサービス向上に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議やミーティングで意見があれば、施設長に報告し回答を得ている。職員からの相談は必ず回答するよう務めている前年度より良くなった。	代表者や管理者は普段のミーティングや会議で職員の意見や提案を聞き取り、更に年1回個別懇談を実施している。そこで表出した意見や提案を、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者は給料に反映される仕組みになっているほか、前年度は職員の喫煙室の整備をしました。職員との話し合いで必要なものを整備してきました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が順次、法人内外の研修に参加し個人のスキル向上を目指し、ケアに反映する体制をとっている。また勤務も研修に合わせ調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム広域連絡会に入会し、年4回の研修会に参加して職員同士の交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や戸惑いに対し常に丁寧に傾聴し、寄り添い不安を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規入居者が落ち着いた生活を送れるようになるまで、家族等の要望やサービス内容の確認をしながら関係を密にし、信頼して利用していただけるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族等の要望、利用者の生活習慣や残存機能を考慮し、スタッフ間でのアセスメント、カンファレンス等により必要な支援を確認し、必要があれば他のサービス利用も含めた対応をするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリとして、簡単な家事の参加や、利用者の自己決定を尊重した生活していただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の思いを必要時に家族に連絡し、家族と職員とで利用者が穏やかに生活できるよう努めている。また家族の面会の他、通院や散髪などの際には家族にも行ってもらえるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の面会など人間関係の継続の支援に努めている。また受診等の外出時には馴染みの場所へ行き、懐かしんでもらえるよう努めている。	家族との外出や理美容院への同行、友人・知人の訪問時などゆっくりと過ごしたり、これまでと変わらぬ関わりが継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やおやつの時間、レクリエーションや娯楽の時間の際には入居者同士の関係が良好になるよう見守り、交流できるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後の利用者のお見舞いに伺うなどして近況を把握し必要に応じて本人・家族のフォローをしている。葬儀にも参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日入浴を希望されている利用者には叶うよう努め、外出希望者にはドライブや家族との外出を行っている。また会いたい馴染みの方等に連絡して訪問してもらうよう支援している。	日々の本人との会話の中で発する言葉、表情、また家族の話から、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の習慣や個々に合わせたケアを日頃から努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の自由な意向に合わせてケアをしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や毎月のカンファレンスにおいて本人・家族・職員での課題や意見の検討内容が介護計画作成やモニタリング反映するよう作成している。	連絡ノートや個別記録、申し送りやケアカンファレンスなどを活用し介護計画を作成しているが、日々のケアを優先し、必ずしも介護計画に沿ったケアの内容とはなっていない。	介護計画に沿ったケアの実践は、介護保険法の根拠であり、認知症ケアの基本部分といえる。介護計画に基づいた、目的を持ったケアの実践に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での支援に関する連絡は「連絡ノート」を活用し、ケア実践が円滑に行われるよう工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の老人クラブへの参加などの取り組みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館で紙芝居を借りて楽しんでいただいたり、地域のボランティアに来訪してもらい、歌や踊りを楽しんでいただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	家族の希望を尊重し主治医を変えない等の支援をしている。	事業所は、本人と家族の希望に添ったかかりつけ医の選択ができるように薦めている。通院は基本的に家族が行っているが、都合により職員のみ同行時は、報告・連絡を行い適切な医療が受けられるよう支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪看が来訪の際には、利用者の情報を伝え、適切なケアを支援できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先医療機関や家族との情報交換や相談に応じ、利用者が安心して治療できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意向はもとより、家族や医療機関との話し合いを行い、最善をつくるよう努めている。	事業所では重度化や看取りについての必要性を十分に理解し指針の作成を行っているが、利用者や家族への提示と説明の時期について懸案事項となっている。	重度化や看取りについては利用者本人を支えていく為に、出来るだけ早い段階での本人や家族への意向確認が必要と思われ、作成した指針を用いて文面での説明と提示に期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員の救命講習参加により「普通救命講習終了証」を取得している。また緊急マニュアルを作成し職員がいつでも閲覧している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力を得て、日中および夜間を想定した防火訓練を行っている。	近隣の同法人のケアハウスや地域の協力のもと、年2回避難訓練を実施している。運営推進会議の協議内容を受け消防職員の講義時間を設け、災害対策に対する意識を高め訓練に臨んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライド・プライバシーの保護に努め、尊厳のある暮らしを支援できるよう努めている。	一人ひとりの気持ちを大切に、さり気ない言葉掛けとプライバシーに気を付け支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の思いに寄り添い傾聴し、生活の中で自己決定できるよう言葉掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の時間の流れはあるが、利用者のペースに合わせて希望にそって支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要な化粧品等を使用していただき、入浴後の整容や定期的な訪問散髪を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みに応じた食事が叶うよう努め、毎食職員と一緒に食事をしている。また、利用者の残存機能や過去の生活習慣を活かし、職員と一緒に準備や片付けをしている。	一人ひとりの好みや体調に合わせての食事提供がされており、美味しく楽しむ食事支援を心掛けている。利用者は出来る範囲で、職員と一緒に下準備・後片付けを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事量・好み・形状を把握し提供している。毎日の水分量を記録し、一日を通じて不足している方には声掛けし摂取するよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝時声掛けし、本人の状態によっては介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的には自立してトイレでの排泄を見守りしている。また一人ひとりの状態に合わせ声掛けや誘導をすることがある。	排泄自立者が多いため職員は見守りを行い、必要に応じ声掛け・誘導を促している。自尊心を傷つけないように、自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状況を確認して取り組んでいる。また状況に応じて食事や水分を工夫し、下剤利用などでも対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に合わせて本人の希望を優先し入っていたりしている。毎日の入浴を希望される方にも叶うよう努めている。	週2、3回天然鉱石を浴槽内に入れ、入浴時間の選択など本人の希望に添った入浴方法で、個々に楽しめる支援を行っている。入浴時には、見守りや一部介助等の支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向を優先して不安なことには傾聴対応し安心して眠れるよう支援している。またホットミルクを提供したりして工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を共有し服薬確認も行っている状態も確認している。また「服薬管理一覧表」を利用し、与薬の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌、百人一首、麻雀などで気分転換を図れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買い物など戸外に出かけて気分転換を図るよう努め、定期的に家族と外出できるよう協力を求め、支援している。	外気浴の必要性を感じ日常的に周辺の散歩や買い物、花見やぶどう狩り、ドライブなど、一人ひとりの希望に添った支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の希望に添ってお買い物できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内の公衆電話の利用、希望があれば支援して家族や友人などに自らが電話できるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、遮光など刺激のないように工夫し、季節の飾り物などで季節感を感じていただけるよう努めている。	各居室には冷暖房が設置され、1年を通して過ごし易い環境づくりがなされている。居間には季節の人形などが飾られ、室内の装飾品は華美にならず落ち着いた雰囲気ですぐ過ごせる配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに談話スペースを確保し、利用者同士が和やかに過ごせるような空間作りを工夫し、常に見守りしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や寝具、使い慣れた食器等を持ち込んで頂き、居心地良く過ごせるよう工夫している。	箆笥や仏壇、鏡台、家族写真など、本人や家族の思いが詰まった品々が持ち込まれ、安心して過ごせる居室の配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアに「便所」と掲示したり、浴室の前に暖簾をかけるなどわかりやすい工夫している。		